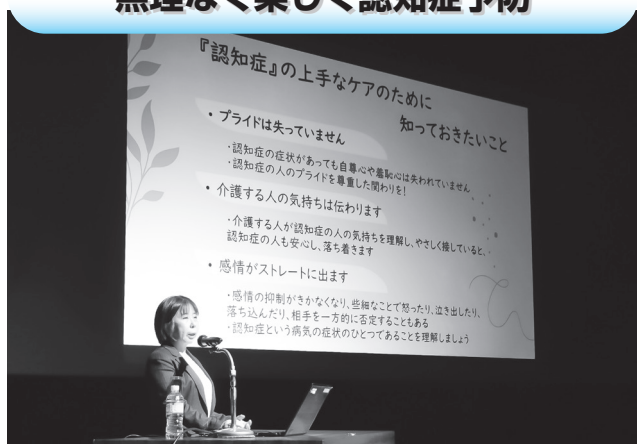


無理なく楽しく認知症予防



1月25日(土)に町民会館において、養老町在宅医療・介護連携推進協議会の主催で第9回 認知症町民公開講座が開催されました。

町における認知症の取り組みについて報告した後、きたえ〜るかがやき コグニサイズ認定指導者の伊藤はるみさんによる楽しく脳をきたえる認知症予防体操とJ A岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院 認知症看護認定看護師 岡村恵さんによる講演が行われました。なりたくない病気第1位である認知症にならないために、頭と身体を使って脳を刺激する体操を実践し、認知症への正しい理解と認知症の人への寄り添い方などの講演を聴くことで、参加者は認知症への予防や対策について学び、理解を深めました。

誇りと愛着が持てるまちへ



1月19日(日)に町民会館において、養老町制施行70周年記念「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」推進会議推進大会が開催されました。地域の発展に尽力いただいた人および団体の表彰とともに笠郷地区による「地域に根ざした特色ある地域活動」について実践発表が行われました。その後、県青少年育成推進指導員である早崎敏さんによる「『親孝行と生涯学習を進めるまち養老』推進員の取り組み」を演題とした講話がありました。

まちづくり「5つの呼びかけ」をもとに「誇りと愛着が持てる 絆を大切にするまち 養老をめざして」をスローガンに掲げ、これからも家族の絆を大切にしながら地域ぐるみで青少年の健全育成を推進していきます。

夢を持とう 前へ進もう



1月28日(火)に広幡小学校で、台湾女子プロサッカーリーグで活躍している若林美里選手と母の郷美さん、父の則行さん、韓国女子プロサッカーリーグで活躍している佐藤瑞夏選手の4人を講師として迎え、トーク&ドゥー「夢をもって前へ」が開催されました。このイベントは開校150周年を記念して企画され、今年で3回目の開催です。

郷美さんは「子育てで大切なことは、強制するのではなく、どうするといいいのか自分で考えられるよう導いてあげることだと思います」と話し、自分が大切にしてきたことを子育て世代の親へ伝えました。また、プロ選手2人を交えてスペシャルマッチも行われ、子どもたちにとって忘れられない機会となりました。

若者の意見を町政に



1月30日(木)に町役場4階大会議室にて、高校生に町行政や議会を身近に感じてもらうとともに町議会が若者から意見を聞く機会とすることを目的として大垣養老高校の生徒と町議会議員との意見交換会が開催されました。

生徒と議員がそれぞれ4つのグループに分かれ、大垣養老高校と議会から提起された各テーマについて意見交換しました。どのグループにおいても、自分たちに関わりの深い生活環境についての問題や国、県、町の未来を決める政治と選挙にまつわる議題について活発な意見交換が行われ、養老町をよりよいまちにするためにはどうしていくとよいのか、高校生ならではの視点から意見を聞くことができる貴重な機会となりました。